

研究課題名	大腸癌遠隔転移に対する薬物療法介入の意義についての観察研究
研究の意義・目的	現在、大腸癌が他の臓器に転移した場合（遠隔転移）、がんの進行を抑えたり症状を和らげたりするために、様々な抗がん剤や分子標的薬などの新薬を組み合わせた治療が行われます。近年、大腸がんに対する新しい治療薬が次々と開発され、治療の選択肢は大きく広がっています。しかし、実際の日常診療において、「どの治療法が、どのような患者さんに一番効果的なのか」「実際の現場では、どのような副作用に注意すべきか」といったデータは、日々集め続け、検証していく必要があります。本研究の目的は、日常の診療において、他の臓器に転移のある大腸がんの患者さんに対して行われた様々な薬物療法（抗がん剤治療など）が、実際にどの程度の有効性や安全性をもたらしているのかを総合的に評価することです。
研究を行う期間	承認後～2032年3月31日
研究協力を お願いしたい方 （対象者）	2032年3月までに大阪公立大学医学部附属病院の消化器外科で、遠隔転移のある大腸癌の治療をされた方が対象となります。
協力をお願いしたい 内容と研究に使わせ ていただく試料・情 報等の項目	日常診療で実施される以下の①から⑥の項目についての情報を、診療録より匿名で取得します。 ① 患者基本情報：年齢、性別、身長、体重、既往歴、併存疾患、家族歴。 ② 原疾患の状態：診断名、病型、組織型。 ③ 転移巣の状態：場所、数、組織型。 ④ 検査結果：血液検査、画像検査（X線、CT、MRI、PET、超音波）、内視鏡検査結果。 ⑤ 薬物療法の内容、期間、合併症。 ⑥ 薬物療法と付随した治療（手術、放射線治療、熱凝固治療）の内容（治療日時、方法、治療結果、治療期間、合併症）
試料・情報を 利用する者の範囲 および管理について 責任を有する者の 研究機関の名称	この研究は、公立大学法人大阪 大阪公立大学大学院医学研究科消化器外科学のみで行います。
個人情報の取り扱い	この研究にご参加いただいた場合、あなたから提供された診療情報などのこの研究に関するデータは、すぐには個人を特定できない形式に記号化した番号により管理されます。この研究から得られた結果が、学会や医学雑誌などで公表されることはあります。このような場合にも、あなたのお名前など個人情報に関することは含まない形で公表されます。
本研究の 利益相反	本研究の利害関係については、各研究機関で定められた利益相反マネジメントの規定等に従って必要に応じて各研究機関の利益相反マネジメント委員会へ報告を行うことにより、利益相反を管理し研究を遂行します。本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。

研究に協力を したくない場合	診療情報が当該研究に用いられることについてご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも不利益を受けることはありません。
連絡先	大阪公立大学医学部附属病院 消化器外科 担当者氏名：渋谷 雅常 電話番号：(06) 6645-3835